受領　令和６年５月 30 日　８時 30 分	通告番号（16）1/2

令和６年５月 30 日

読谷村議会
議長　伊 波　　篤　殿

読谷村議会議員
神　谷　嘉　栄　　印

一 般 質 問 通 告 書

第 535 回読谷村議会定例会において次の事項の質問をしたいので、会議規則第 61 条第２項の規定により通告いたします。

質　問　要　旨	答弁を求める者
１　「災害関連死」の認定について （１）「災害関連死」の説明を求める。 （２）「災害関連死」の認定に至るまでの過程と認定された場合についての説明を求める。	
２　県支援の中学校給食無償化について （１）５月 24 日に県知事より来年度から中学生のいる世帯の給食費を無償とする市町村に対して、費用の２分の１を補助するという発表に、翌日の新聞紙上で石嶺傳實村長からは「一歩前進だとした上で半分は県が持つが、読谷村でも単年度で１億円くらいの財源を捻出することになる。即答はできないが内部で検討する」という旨の記事があったが、その後どのような進展があったのか伺う。 （２）（１）同様に今後において、小学校へも支援があった場合についての見解を求める。	
３　村内営農家への本村独自の支援策について （１）４月 25 日付の新聞紙上に、芋の「備瀬１号」と「おきひかり」の自然交配による新品種が「サン紅」の名称で品種登録された。甘みが強く、栄養素が他の芋より多く、病気への耐性などが評価され、さらに紅芋よりも鮮やかな紫色という旨の記事があった。「品種登録」による「育成者権」との兼ね合いもあるかと思われるが、本村としての考えを伺う。	

質　問　要　旨	答弁を求める者
（２）４月 16 日付の新聞紙上で、読谷村産バニラを使ったスイーツが今年３月、県外にて期間限定での発売について、県に報告があったとのこと。ただ、バニラ栽培は生産開始から収穫までに３～４年を要し、園芸施設の設置に初期費用がかかるため「新規就農者の増加に向け、県には設備面の柔軟な支援をお願いしたい」とした。さらに、読谷村バニラを使用した商品の通年販売には生産増大が課題であるという旨の記事であったが、そのことに対して本村としてはどのように考えるか。 （３）３月 20 日付の新聞紙上に、穀物価格の上昇で、家畜の餌となる配合飼料が 2023 年の平均価格は 2017 年の 1.8 倍に値上がりしたことで、経営環境が厳しく、離農や廃業に追い込まれる農家も出ているという旨の記事があった。村内における状況も含めて、本村の考えを求める	
４　「買い物弱者」の現状と対処策について （１）農林水産省が今年３月に「スーパーやコンビニが近くになく、自動車も使えないため買い物が困難な買い物弱者（65 歳以上）が、2020 年時点で全国に 904 万 3 千人いるとの推計を発表した」とのこと。本村においても集計（推計）を行ったのか。あったのであれば、その数値を伺う。 （２）コロナ禍だった頃、消費が落ち込んだ地場産業と同時に、移動手段がなく買い物に不便を感じている方に向け、移動販売車が令和３年９月にスタートした。村の１号車（漁協）・２号車（まつだ商会）と JA のゆんた号車の現在の販売状況を伺う。	
５　コミュニティバス（鳳バス）の運行経路設定について （１）当初、運行の経路となるルートを設定した際、最終的な決定に至るまでのプロセスを詳細に求める。 （２）（１）の決定をしたルートを変更する場合についても、同様にその過程を求めると同時に、それに要するおおよその期間を伺う。	